

群来

第81号 令和6年2月29日発行

編集・発行 秋田県水産振興センター
〒010-0531
秋田県男鹿市船川港台島字鶴ノ崎8-4
TEL 0185-27-3003 FAX 0185-27-3004



漁業者自らによる磯根資源調査（八森）

「消費者ニーズへの対応」



所長 阿部 浩樹

日頃より、水産振興センターの試験研究の推進に当たり、ご理解とご支援をいただき誠にありがとうございます。

私は、水産漁港課長として1年間お世話になったあと、令和5年4月1日に当センター所長として着任しました。農業土木や農村振興が専門であり、漁業・水産業は未知の分野でしたが、職員や漁業関係者から話を伺い、同じ一次産業の農業とは大きく異なる産業であることを認識したところであります。

ご承知のとおり、本県漁業は、海洋環境の変化に伴い、獲れる魚種や数量が大きく変動しているほか、波浪などにより漁に出られない日も多く、漁獲量・漁業収入が低迷する中、消費者ニーズに対応して水産物の販路拡大や蓄養殖への挑戦など、新たな取組が始められています。

男鹿市の「なまはげの里オガレ」では、新鮮な魚を一般消費者から料理人までが買い付けに来るほどの人気となっているほか、八峰町では、サーモン養殖に挑戦するとともに、海鮮丼を目玉としたお食事処が開業しております。また、水揚げした魚をオンラインで直接販売する漁業者も県内各地で増えております。こうした取組は、漁業者の収益向上に結びつくとともに、地域を訪問するきっかけとなるなど、地域振興（＝海業）にもつながっております。

また、本県沖では、洋上風力発電事業の計画が進み、風車による漁業への影響が懸念されている一方で、魚集効果や事業者の拠出による共生策への期待が高まっています。漁業への影響を最小限に抑え、漁業そして地域振興につながる具体策を官民一体で進めることが重要であり、洋上風力共生型の先進地として秋田県漁業が持続的に発展できるものと考えております。

最大の関心事であるハタハタ漁は、漁獲量が大きく落ち込んでおり、海洋環境の変化が主な要因とされていますが詳細はわかっておりません。当センターとしましては、国の研究機関と原因究明に努めるとともに、標識放流による接岸経路の解明や、漁場予測技術の開発等の研究を進めており、資源管理及び漁獲データの収集等について、漁業関係者の協力をよろしく願います。

最後に、本誌のタイトル通り、ハタハタが再び本県沿岸へ「群来」し、浜が賑わうとともに、食文化が守られていくことを祈願し、筆を納めたいと思います。

● 研究成果報告 (資源部) ●

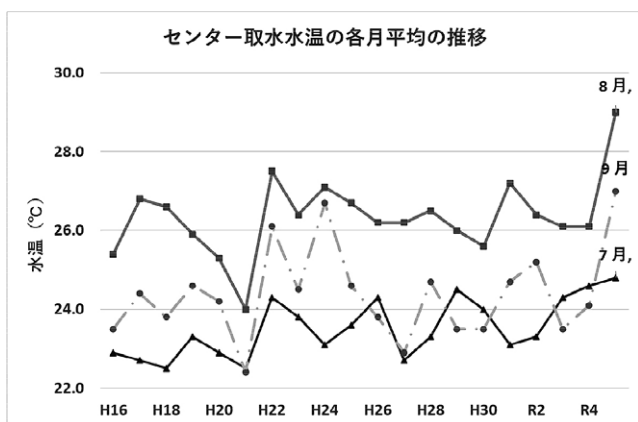
夏の高水温

皆さん、お久しぶりです。4年ぶりにセンターに帰ってきました土田です。今年度から資源部で漁海況や貝毒プランクトンの調査等を行っています。前回、資源部で研究員をしていたのは20年も前のこととなりますので、一から覚えなければならぬことも多々ありますが、一生懸命勉強していきますので、今後どうぞよろしくお願いいたします。



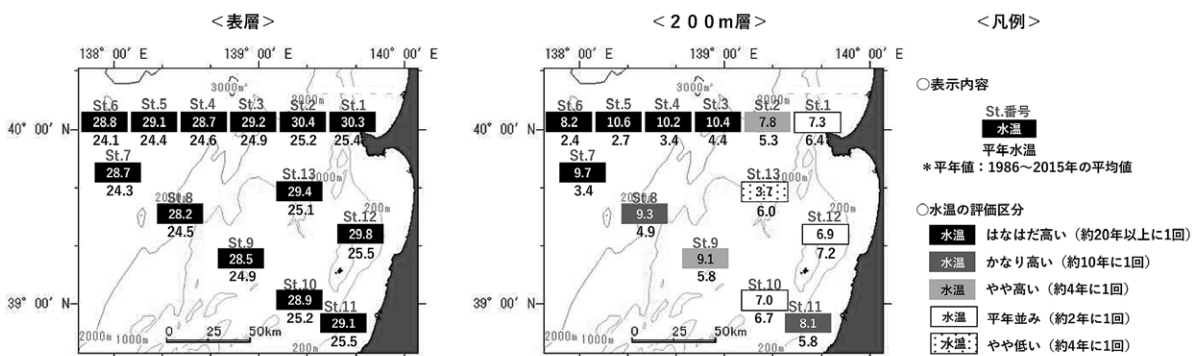
令和5年の夏は記録的猛暑で辛い日々が続きましたが、その影響は、地先水温（センター内に取水している海水の温度）と沖合観測データにも現れましたので、その状況をお知らせします。

地先水温は毎日計測し、センターのホームページ「きょうの水温」で公開していますので、操業の参考に使っている方もいるかと思えます。右のグラフに7・8・9月平均水温の経年変化を示しましたが、令和5年は平成以降最高を記録し、8月は29.0℃まで上昇しました。



沖合観測は、調査指導船「千秋丸」で2～6月と9～11月の月初めに秋田県沖13点の水深数百mまでの水温、塩分等を測定しているもので、ホームページの「海洋観測結果」で公開しています。

7～8月に実施していないので最も高い時期の水温がどうかはわかりませんが、9月の表層と水深200m層の水温を下に示しました。表層は全観測点で「はなはだ高い」水温となり、200m層でも1点を除いて、平年以上となりました。この影響によるものと一概には言えませんが、底びき網の9月の漁獲はマダイやハツメなど数種を除き、ほとんどの種で過去5年平均よりも減少していました。



高水温による、魚介類の大量へい死といった報告はありませんでしたが、冷水を好む魚介類の水揚げ量は最近減少傾向にあるように感じています。魚介類にとって生活圏である水環境の変化、とりわけ水温の変化は大きな問題ですので、今後も水温と生物資源の動向に注意していきたいと思えます。

皆さまも珍しい魚が獲れたり、今までとは違った漁獲の傾向がありましたら、ぜひ情報提供をよろしくお願いいたします。

詳細な情報はセンターのホームページでご覧になれます。ホームページへは右下のQRコードか次のアドレスからお入り下さい。



水産振興センター HP <https://www.pref.akita.lg.jp/pages/genre/akisuishi>

● 研究成果報告 (増殖部) ●

あの目の磯をもう一度。

はじめまして、増殖部研究員ワカメマイスターの柳原です。今年でセンター2年目となり、必要なスキルや情熱がワカメの如く伸び続け、溢れんばかりに押し寄せる探究心は、まさに「群来」です。

さて、増殖部では現在、普及指導員と協力し、磯根資源の新たな増養殖手法の開発に係る調査研究を行っています。今回は、近年、漁獲量が減少傾向にあるアワビ(図1)の資源状況や漁場環境を把握するための調査について、結果の一部をご報告します。

調査では、県北部及び県南部の各地区における操業・漁獲情報を整理し、現在のアワビ資源の状態を判定しました。得られた情報を整理してみると、例えば、漁獲量の減少が小さい岩館地区や上浜地区では、1日5kg前後のアワビを漁獲する漁業者が最も多く、1個あたりの平均重量も160～180g台の大型アワビを中心に漁獲しているのに対し、漁獲量が長期低迷している平沢地区や象潟地区では、1日1kg未満の漁業者が最も多く、100g前後の小型アワビが漁獲の中心であることが分かりました(図2及び3)。

このことから、漁獲量の減少が大きい地区では、大型アワビが少なくなり、新たに漁獲加入した小型アワビに漁獲が集中している極めて危険な状態にあり、同様の漁獲圧による操業を続けた場合は、一人当たりの漁獲量がさらに減少する可能性が高いことが分かります。このように、地区毎の現状をより正確に把握することで、資源の再生が追いつかなくなってしまう前に、その地区に合った最も効果的な対策方法を検討し、実行することができると考えています。

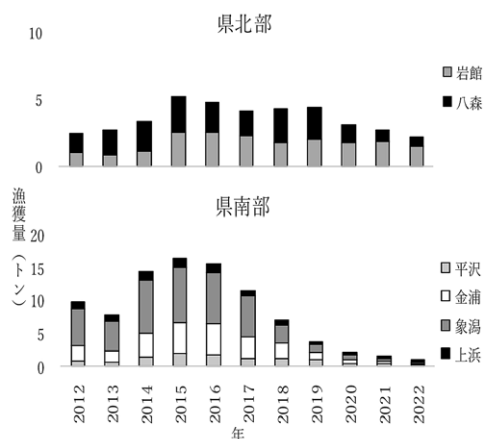


図1 県北部及び県南部のアワビ漁獲量

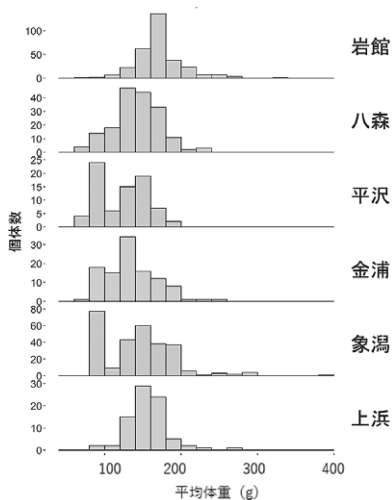


図2 アワビ平均体重の頻度分布 (2022年)

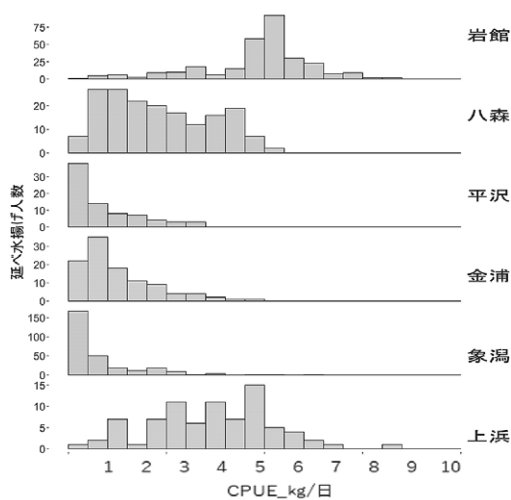


図3 1人1日あたりのアワビ漁獲個数 (2022年)

さらに今年度は、八森と金浦のアワビ漁師と水産振興センター職員が能代市内に集まり、互いの地区の漁模様や漁場の状態、操業ルールについて情報交換を行いました(写真)。来年はこの会をにかほ市で開催し、持続的で儲かる磯根漁業を目指す漁師の交流の場を設ける予定です。夏場の貴重な収入源である磯根漁業の復活に向けて、漁師と水産振興センターの連携が続きます！



●トピックス (総務企画班) ●

漁業者らによるギバサに関する取組が表彰されました!

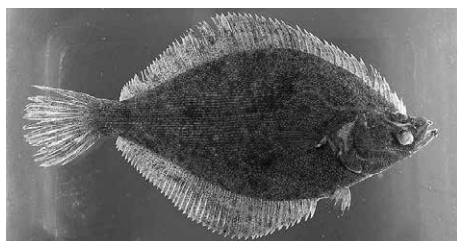
令和4年度の秋田県青年・女性漁業者交流大会で優秀賞に選ばれた漁業者グループ(北部ギバサ増殖会、岩館地区代表小林優大氏、八森地区代表船越宗大氏)によるギバサ漁場の維持、増大に向けた研究活動が、本年3月に東京都で開催された全国青年・女性漁業者交流大会で水産庁長官賞と全国水産試験場長会会長賞を受賞しました(写真上)。

強い粘りのあるギバサ加工品は郷土食として秋田の海藻食文化の中心的存在であり、本県北部で開発された加工法が今に引き継がれています。県では「粘る海藻王国あきた」を旗印に、加工業者らとギバサ研究会を組織し、本県独特の海藻食の振興を図ってきました。この豊かで健康的な海藻食文化を将来に繋ぐには、ギバサ漁業と加工業の維持が欠かせません。この度の漁業者による漁場管理技術はギバサの漁獲量安定を目指すもので、ギバサ食文化を維持する上で加工業と両輪をなす取組です。そこで、これらの取組をまとめて「粘る海藻王国あきたにおけるギバサ漁業と加工技術、食文化を守る取組」として、令和4年度文化庁の食文化「知の活用」振興事例に申請したところ認定されました(写真下、ギバサ研究会の夏井勝博会長が授賞式に出席)。海藻は健康増進に役立つ食品として需要が増しており、養殖する際も環境負荷が小さいことから、持続性の高い水産資源として世界的にも注目が高まっています。海洋環境が激変している昨今、世界的にも貴重な本県の海藻食文化の恩恵を今後も享受できるよう、当センターは今後も藻場の造成や養殖技術の改良に、漁業者らと共に取組んでいきます。

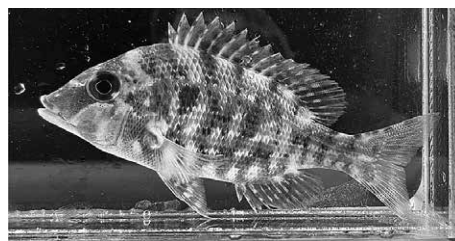


秋田の海の珍しい魚

近年秋田の海で確認された珍しい魚介類を紹介します。普段見慣れない魚等を捕まえた際には、ぜひ当センターへ情報提供をお願い致します。



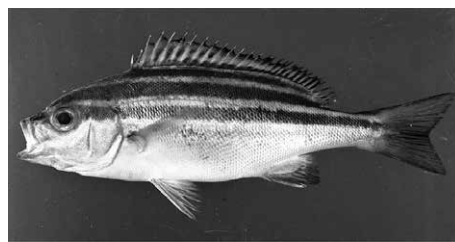
スナガレイ
令和3年9月10日 男鹿船川沖
全長：29cm 体重：237g



フエフキダイ
令和4年11月2日 男鹿船川沖
全長：13cm 体重：33g



アズマハナダイ
令和4年11月15日 北部八森沖
全長：6cm 体重：不明



イサキ
令和5年10月4日 男鹿船川沖
全長：18cm 体重：71g